

はじめてのいろは歌

晏田 四方やすだ よも

「いろはにほへとちりぬるを……」

皆さんもご存知だと思いますこの有名なフレーズ。

「いろは歌」と呼ばれるもので、私も学校の授業や何やらで、もちろん存在は知っておりまして。

さて、この「いろは歌」。実は自分で作ることができると知ったのは、本当に最近のことです。文藝部の後輩が「いろは歌会」を開催してくれたおかげでこの文化を知るに至りました。

なるほど、いろは歌って自分で作っていいんだ。

そんなわけで、その「いろは歌会」で発表したオリジナルのいろは歌を六つ、紹介させていただきたいと思えます。

作る際の大まかなルールとして、「あくん」までの四十六音を全て使うこと、音が重複しないこと、テーマを決めること、とあります。

歌の一つ一つに意味を込めましたので、解釈を膨らませながら楽しんでいただければ幸いです。

テーマ『儂さ、後悔』

やま すむ かなりあ こえ きぬのよう
さちをわたし れんけ もゆ

くるいはて そらへ
め おほい ふね みろと せつに

山住むカナリア 声絹のよう

幸を渡し 蓮華燃ゆ

狂い果て 空へ

目覆い 舟見ると切に

テーマ『怠惰』

せたけのひて うろこめ おほい

みまふも はかに くすりなし

ゆれる つね あき やらぬ えんさ

むちよ わを そとへ

背だけ伸びて 鱗目覆い

見舞ふも 馬鹿に葉なし

揺れる常 飽きやらぬ 怨嗟

無知よ和を外へ

テーマ『ハッピーSSSライフ』

しねはよひ ほえるもの きにせず
てつけん ちぬれ なむ なくま こそ
あさを おふ
かたり わらへ ゆめ みる という

「死ねば良ひ」 吠える者 気にせず
鉄拳 血濡れ 病む 泣く 間こそ 朝を追ふ
語り 笑へ 夢 見ろ と言う

テーマ『青春の恋』

ちよかみ おつて こい うたふ
まわらぬ れんさ ゆめをも せ むけ
はる しす そねの え ほろりと
あきに なくひや

千代紙 折って 乞い 詠ふ
廻らぬ 連鎖へ 夢をも 背向け
春 死す 塙の 枝 ほろりと
秋に 泣く日や

テーマ『世の常』

ほうくん おち
また さかえるのも つねなり
よわきは ろふせず
とみ あいにゆれ やむ
ぬけめ をへて そらこひし

暴君 落ち また 栄えるのも 常なり
弱きは 勞せず 富 愛に揺れ 病む
抜け目を 経て 空恋し

テーマ『趣味』

やいは あつひうちにと たけるころ
おさなき そふねん しらかへ
まわり よを みす ゆれぬもの
くせ ほめて えむ

刃 熱ひうちにと 猛る頃
幼き 壮年 白髪へ
周り 世を見ず 揺れぬ者
癖 褒めて 笑む

蛇足

歌の解釈については読み手の想像にお任せするのが良いとは思いますが、私自身の解釈も書き留めておこうと思いません。

いろは歌は作る際に制限が多い分、自分でも思わぬ単語が出てきて、想定と違う雰囲気になることもまた魅力。そんなわけで、なるべく簡潔にと心がけつつ、私が見た景色を共有したいと思います。

「やま すむ かなりあ……」

人のためにと自分の幸福を周りに分け与えているうちに、わが身は擦り切れ、ついに儂くなってしまった。

そんな人がいたという事実を見なかったことにしてはならない、向き合っ受けて入れろというのは、誰の声だろうか。

「せたけのひて……」

体ばかり大きくなって、周りのことが何も見えていない馬鹿につける薬は無い。優柔不断で付和雷同。やる気

もなく、何も成さなくせに嫉妬や恨みは抱く。

そういう者は和を乱し、最後は輪からはじき出される。

「しねはよい ほえるもの……」

ネット上で気軽に暴言を吐く者を気にしない方が良い。そんな人間にわざわざ拳を振り上げる必要は無い。

そんな暇があるならば、楽しい未来のことを考えるべきだ。

「ちよかみ おつて……」

好きな人に気持ちを伝えたいと思う。好きな人に自分の気持ちに伝えてほしいと思う。

しかし現実はどうもいかず、思いを伝えることすらままならない。

土地はやせ、枝も落ちた。過ぎた春を思っ泣く、そんな秋の日。

「ほうくん おち……」

悪者が衰えるのも、また栄えていくのも世の常である。力のないものが努力もせず、お金や愛をただ求め、夢を見て、心を病むことも世の常である。日々を振り返って、自分の愚かさに打ちひしがれそうな時は、ただ空が恋しくなる。

「やいは あつひうちにと……」

熱中できることには、年齢や性別に限らず、熱中できる間にどんどん打ち込んだ方が良い。

周りの目や評価を気にせず、自分のやりたいことをする。

たとえ、社会が優れていると認める形と異なっていたとしても、自分の形を認め、愛することの、なんと楽しいことか。